令和二年 庚子

一月（睦月）	初詣	浅草名所七福神もうで
二月（如月）	三日 節分の日	
	八日 針供養	
三月（弥生）	十八日	浅草観音示現会・金龍の舞
四月（卯月）	八日	釈尊誕生日（花まつり）
	十二日	白鷺の舞
	十二日	早慶レガッタ
	十八日	浅草流鏑馬
五月（皐月）	五日	宝の舞
	十五～十七日	三社祭
	三十、三十一日	お富士様の植木市
六月（水無月）	二十七、二十八日	お富士様の植木市

令和二年 庚子

七月（文月）	九、十日	四万六千日（ほおずき市）
	十一日	隅田川花火大会
八月（葉月）	十五日	万霊燈籠供養会
九月（長月）	二十六日	浅草サンバカーニバル
	上旬	台東薪能
	二十二日	彼岸会
十月（神無月）	十八日	菊供養
十一月（霜月）	三日	白鷺の舞
	二、十四、二十六日	酉の市
	十五日	七五三
十二月（師走）	十七～十九日	歳の市（羽子板市）
	三十一日	除夜の鐘（弁天山）

※催事日程につきましては変更になることが御座います。予めご了承ください。

●浅草・槐の会 お客さまおもてなしマガジン

The Door Step to Japan

日本の扉 浅草

vol.44

2020年 春夏号

浅草を彩る3月～8月の代表的催事

5月　皐月

「びんざさら舞」

● 5月15日

浅草付近の宮戸川で示現された観音像は、現在の駒形橋付近から陸にあがられ、槐の木の切り株の上に安置されました。そのおり、草庵〈藜堂（あかざどう）〉を作った十人の千束田圃の百姓衆が、草庵の完成を祝って踊ったのが「びんざさら」の始まりといわれています。三社祭奉納の「びんざさら舞」は、田楽舞（ささら舞）と獅子舞の二つの舞が備わっている全国でもめずらしいものです。

三社祭

● 5月15日～17日

浅草神社は、浅草寺観音像を浅草付近（宮戸川）から網得した漁師、檜前浜成（ひのくまはまなり）、竹成（たけなり）と、土地の識者、土師中知（はじのなかとも）の三人を祀るところから、古くは三社権現と称されていました。三社祭の名はここからきています。三社祭は神輿渡御が有名で、浅草神社の氏子町会四十四ヶ町の神輿勢揃いが土曜日の午後1時に浅草寺境内で行われ、浅草が祭り一色に染まります。

5月 三社祭
写真協力：
台東区写真連盟
青山真平氏

6月　水無月

お富士様の植木市

● 5月30日・31日、6月27日・28日

浅間神社（俗にお富士様）の縁日で、元禄の頃に富士山信仰から始まったものです。当初は、6月1日の山開きに合わせて5月晦日・6月1日の両日でしたが、明治以降山開きが7月1日になったことから6月晦日と7月1日も合わせた四日間のご縁日となり、近年になって5月と6月の最終土・日曜日に行われるようになりました。柳通りと神社を中心に約350軒の植木屋と200軒の売店が出ますが、この界隈は花柳界と呼ばれる地域で浴衣姿の家族づれにまじって粋な芸者衆の姿を見かけることもあります。

7月　文月

四万六千日《ほおずき市》

● 7月9日・10日

下町の風物詩、夏の草市（植木市、朝顔市、ほおずき市）の一つで、この日に浅草寺にお参りすると特にご利益があるといわれる功徳日でもあることから、境内は正月、三社祭に次ぐ人出となります。

隅田川花火大会

● 7月11日

享保年間に始まり、両国の川開きとして250年の伝統を保ってきた花火大会ですが、交通その他の事情により昭和36年を最後に中断しました。それが昭和53年に隅田川花火大会として復活。現在の会場は今戸付近と駒形橋－厩橋間との2会場で夏の夜空を彩る浅草の風物詩となっています。

7月 隅田川花火大会

4月 早慶レガッタ
写真協力：
台東区写真連盟
田村和夫氏

8月　葉月

万霊灯篭供養会

● 8月15日

8月15日の「終戦記念日」に営まれるこの法会は、太平洋戦争で亡くなった戦災者供養のため行われ、現在は幅広くお盆の先祖供養のためにも営まれています。本堂内での法要後、本堂裏の境内地をかがり火で結界し、不動尊のご真言を唱える中、灯篭をお焚き上げします。

浅草サンバカーニバル

● 9月26日

本場のブラジル・リオから、その年の優勝チームを招待して熱狂の夜を過ごすのが、真夏の夜の夢、浅草サンバカーニバルです。お祭り好きで浅草を愛しリオ通であった故・伴淳三郎さんと前台東区長内山栄一氏が意気投合して企画したものです。浅草商店連合会の有志を中心に昭和56年8月29日に第1回浅草サンバカーニバルを成功させました。以後、毎年8月の最終土曜日に開催され、浅草の新しい息吹を示す祭典として定着しています。

［そのほかの行事］

- ◆3月18日　浅草観音示現会・金龍の舞
- ◆3月20日～4月8日　隅田公園「桜まつり」
- ◆4月8日　白鷺の舞
- ◆4月18日　浅草流鏑馬
- ◆4月12日　早慶レガッタ
- ◆4月27日　泣き相撲
- ◆7月1日　浅草富士浅間神社「例大祭」（山開き）

※催事日程につきましては変更になることが御座います。予めご了承ください。

第八回

「浅草寺境内
四方山話後編」

浅草寺子屋

講師
荒井修

この記事は2010年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演の6年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオピニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事を企画しました。

四まで来ると九に戻る 江戸時代の時刻のお話

それで、「時」の話をしたいと思います。皆さんにお渡しした通り、午後の11時から午前1時までを子の刻といいます（**図1**）。1時から3時まで、これ丑の刻です。で、1刻を4つに分ける数え方があって、丑の3つめ、「草木も眠る丑三つ時」というのは２時から2時半頃だというのがわかります。その次が寅の刻、卯の刻、2時間ごとにそう変わっていく。で、ここが明けの六ツです。五ツ、四ツがあって、四ツの次はまた九ツに戻る。ね、そうでしょ？

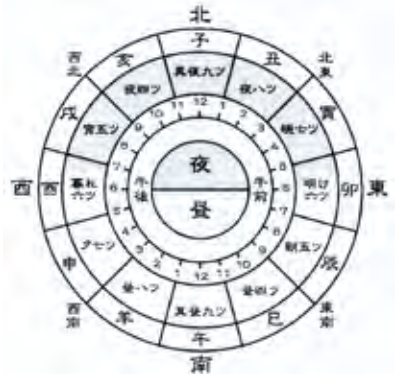


図１：江戸時代の時刻の数え方

で九ツの次がいきなり八ツになるのは何でかっていうと、九という数字が増えていくと考えるからです。九が二つ重なると二×九＝十八でしょ。でも十八回も撞くと、鐘、多すぎるだろということで、下の桁の八ツだけ残すんです。わかります？　で、九の三倍。三×九＝二十七。これ、二十も鐘を撞いたらもうわからなくなっちゃう、そこへもってきて、事前に撞く捨て鐘が3つありますから余計わからなくなる。ということで、七ツだけ残す。鐘を撞くのもそうやって省かないとわかんなくなっちゃうというわけなんですな。

あの「お江戸日本橋七ツ発ち」という歌がありますね。日本橋から旅に行く、この時は七ツ時から旅に行くわけですから、大体七ツ時の真ん中の午前4時ごろに旅に発つんですな。七ツ発ちです。わかりました？

お金を払って放した亀を おじさんがまた網ですくい

それで時の鐘は、辻源七という人が代々名乗ってやってたわけですけど、ええ、寛永3（1626）年に石町３丁目に200坪を拝領して、市中に知らせる時の鐘を撞く役を命じられたわけです。本郷、浜松町、飯田橋、三好町など約400町の住人から1か月4文ずつ集めるんですよ。天秤担いでいろんなところ売り歩く風鈴そばで、一番安いかけそばでもって16文でしょ。その4分の1くらい、時の鐘の聞こえる住人はみんな払わなければいけない。1か月に4文、1年間に48文集めるわけです。で、その鐘撞き役人というのは記録でいうと、1738（元文3）年くらいになると1年90両もらえたらしいですな。これが他の町でも時の鐘を撞くようになって、その一つが浅草寺。それから寛永寺、本所横川町、目白不動、市谷八幡なんていうところがみんな時の鐘を撞いてた。そん中の一つが、浅草寺の弁天山の鐘です（**図2**）。

弁天様というところには、上野の不忍池とか、たいがい池があるんですな。浅草寺の弁天山にもあって、「放し亀」というおじさんがいる。竹竿のところに亀を紐でゆわえて、宙づりにしてる。観音様にお参りに行った人が、こういう時はいいことしなきゃいけないって、その亀を買って池に流すんです。今日はいいことしたなと思って帰るんですけど、夜になると放し亀のおじさんが網ですくって、翌日にはまた紐でつるすという商売をやっていたんですね。この絵の弁天山の周りに見えるのが、放し亀をやっていた池です。

市川團十郎と人気を二分した 口の悪いおじいさん

そんな中で浅草神社、三社様の前辺りのところ（**図3**）。ここで江戸で一番の人気者を二代目市川團十郎と二分したのが深井志道軒という人です。團十郎は非常に二枚目だったそうですけれど、志道軒というのは大変汚いじじいです。絵を見てもわかりますよ、すごい顔してます（**図4**）。こんなおじいさん。歯なんか全然ないんですよ。それでここにつ いてるのが、木彫りの男根…という言い方をしていいのかわかりませんけど、男性のモノですな。これを振り回しながらこのおじいさん、世の中のいろんなことを批評するんです。今でいうとビートたけしさんとかね、立川談志師匠とか、あと爆笑問題の太田光とかね。ああいう人を足して3で割ったような人がこの人。女の子が来ると平気でからかっちゃう。お上のやり方は批判する、浅草寺のお坊さんが通りかかるとまたそれをいじるというとんでもないおじいさんなんです。で、最初のうちは三社様の前辺りで、辻講釈という本当にちっちゃな形でやってたんですけどね。大変な人気になって、しまいには寄席のように囲いができて、お金を取るようになって。とにかく歯が抜けてて禿げ頭で、太い眉毛に大きな目玉。大きな鼻の下に無精ひげがぼうぼう生えて、もみあげとあごひげの区別がつかないなんていう。腰の曲がった小柄な老人で、「とんとんとんとん、ととんとんとん、とんだ話の始まり始まり」なんて言って話し始めるわけです。

以前は普通の坊さんだったんですけど性に合わないってんで辞めちゃって。猥雑滑稽な話や世相を切る話など、派手な身振り手振りで大声で話した。悪口を言ったり、時には歌舞伎の女形の声真似まで使ったりして。畳一畳ほどの演台に机を置いて話していた。木戸銭払って聞きに来る人が連日超満員。中には

図２：昇斎一景「東京名所四十八景・浅草寺境内弁天山」。1871（明治4）年の作

図３：浅草寺境内図。1798（寛政10）年

木戸銭払った以外にご祝儀まで置いていった人もいたそうです。

このころ同じ講釈師で馬場文耕という人がいたそうです。この人は同じように政治批判やって、死刑になってます。馬場文耕が死刑になって、どうして志道軒が大丈夫なのかというと、志道軒の場合は寛永寺の宮様の前でもしゃべってと言われて。親王、陛下の弟君ですよ。平気でこれ、やっちゃってるんですよ。しかし二度目は呼ばれなかったっていうんですけどね（笑）。どっか憎めないところがあったんでしょうな。皆さんよくご存じの平賀源内という人がいますね。あの、土用の丑の日考えた人ね。源内は志道軒に弟子入りしています。それほど大人気のおじいさんだったということですね。

茶店で評判の美人 浮世絵は当時のブロマイド

そういうような芸を見に来る人の他に、もっと別の意味で楽しみに来る人がいます。人はやっぱり色気のある事っていうのは好きですからね。同じお茶を飲むんだったら、きれいな女性のいる茶店がいいと思うもんなんですな。そういうのが浮世絵なんかにもなっちゃう。浮世絵っていうのはブロマイドみたいなもんですからね。見て「本当にこんな人がいるの？」みたいになるわけですね。そうすると茶店だとか楊弓場、美人がいるところはみんな集まるわけです。俗に「明和の三美人」「寛政の三美人」なんてことを言いましてね。（鈴木）春信だとか（喜多川）歌麿だとかが錦絵なんかにして大評判になった人ですね。1700年代後半の一時期っていうのは遊女だとか役者の絵じゃなくて、茶汲み女などの絵が大変な人気で、ずいぶんヒートアップしたと言われています。浅草寺の境内にいたのが、お藤というんですけどね。これが楊枝屋のお藤です（**図5**）。仁平次という人の娘のお藤さん、この人は大変美人で人気がありました。他に境内の茶屋では蔦屋およしだとか、堺屋おそでだとかね。

仲見世をずっと歩いていくと店が片側だけになりますね。伝法院のところで切れてそっから先、右側だけになるでしょ。あそこに二十軒茶屋っていう茶店がありましてね。この茶店にいたのが難波屋おきたですな（**図6**）。この茶店の家賃がひと月一分（約4〜5万円）です。あと上野山下のところには林屋おふでなんて美人もいます。すると誰が一番かっていうことが、大概の人が気になってくるんですな。

大田南畝が書き記した 笠森お仙の絶大な人気

それからこれは有名ですな、明和の4年5（1767 〜 68）年辺りに人気があったのは、鍵屋五平の娘の笠森お仙ですよ（**図7**）。こ

図４：警世家として大変な人気を博した深井志道軒

れは大変な人気がありましてね。本来は浅草じゃなくて、谷中の茶店で働いてたんですけども、どっかで菊人形というと、笠森お仙の菊人形なんて、全然谷中と関係のない神社にまで出ちゃうんですね。

大田南畝っていう人はご存じですか？　狂歌で有名な人ですけどね。「世の中に蚊ほどうるさきものはなし　ぶんぶぶんぶといいて夜も眠れず」なんていうのは南畝の狂歌ですね。この人の辞世の句は…、辞世の句ってわかります？　亡くなる前に読む句ですけどね。「今までは人のことだと思うたり俺が死ぬとはこいつぁたまらん」という句です。この大田南畝の「半日閑話」というのがある。そこに書かれているのが明和５年辺り、お仙は18歳。絵草子、すごろく、読売などの題材にも出て、手ぬぐいにも染められたというくらいの人気です。で、飯田町中坂の四つ木稲荷というところのお開帳の時に、このお仙の菊人形が出来たわけですけどね。木挽町の森田座では、初代中村松江という人が笠森お仙を題材に芝居をやって、これも大当たりしています。江戸中の人気だったんです。

お仙とお藤のライバル対決！ 浅草寺のお開帳がロングラン

そのライバルが浅草寺境内の楊枝店、本柳屋のお藤さん。これが観音裏の奥山のいちょうの下にあった店なのでいちょう娘といわれました。いちょう娘のお藤というのも、これまたすごい人気で、絵草子とかいろんなものに出てきます。

で、浅草寺のお開帳が4月の18日からあったんですけど、この時には、いちょう娘に加えて、いよいよ笠森お仙も出店しちゃったんです。すごいでしょこれ、すぐそばでライバル同士が集まっちゃってるわけですな。で、お仙団子（笠森稲荷にお供えする団子）を売った時に、美人が一堂に見られるっていうんで、こりゃ大人気ですよ。大盛況です。お開帳が延長して延長して、ロングランていうやつですか。終わったのが6月8日だっていうんですから。お開帳がそんだけ長引くっていうのはそうそうないです。

図5：一筆斎文調「柳屋お藤」

明和6年の時にお仙は19歳だったんだけど、南畝は16か17ぐらいだとずっと思ってたみたいです。そのくらい若く見えた人らしいです。うりざね顔でね、眉は緑っていうんだな。緑の黒髪っていうけど、眉も緑。赤い唇。紅、白粉をあまりつけることを嫌がってたっていいます。薄化粧というのが良かったんですな。素顔に近かった。目元に艶があり、往来を流し目で見ていたというふうに「半日閑話」には出ていますね。

お仙とお藤 対照的なその後の人生

それでいくらお仙だって、いちょう娘にはかなわんだろうと書いているんですね。でも実はこの人、お仙の方が美しいって思ってたって脇で言ってるんです。ほんとのところわかんないですね。薄化粧で自然美のお仙の方がたぶん美しかったでしょうね。いっぱい塗ってできれいなのは当たり前だって思われて

図６：喜多川歌麿「おきたと仁王の枕引き」

たんですね。

このお仙は後に旗本の倉地政之介という人のところに嫁いでね。倉地家っていうのはあの、お庭番（将軍から直接の命令を受けて秘密裡に諜報活動を行なった隠密のこと）らしいです。17家のうちの1家ですよ。いってみれば忍者なんでしょうね。この人のところに行って、子供もたくさんできましてね。77歳で亡くなったので、大変長生きしてんですね。ただし、いちょう娘お藤さんの方は後に行方不明になってね。その後のことは何にも残ってないです。ですからそういう意味で言うと、お仙さんは本当に幸せな生涯を送ったということのようです。

荒事を生んだ市川團十郎 役者紋「鎌わぬ」の由来

歌舞伎役者の中では、この頃の一番人気は、さっき言った二代目市川團十郎という人です。当時は暖簾でみんな商売が決まってたんですね。大体お菓子屋の暖簾というのは白地に墨と決まっている。呉服屋が紺地に白とかね。その頃、二代目の團十郎を大変ひいきにした呉服屋がですね、浅葱の暖簾にして大変な評判になったんです。浅葱っていうのは水色です、水浅葱。

役者紋としては、團十郎のところは定紋は三枡というのがあるんです。海老蔵の時代には寿の字海老というのがあります。寿の字が海老の形になっている。あれなんかは呉服屋が使っていたんですけど、そのまんま團十郎がいただいちゃったそうです。

初代團十郎という人がやったお芝居に荒事というのがある。「荒事とはどういうものか」と大名に呼ばれてね。「ここでやっていいですか」って言って、そばにある燭台とか投げつけたりして、ふすまは破るし、すごい暴れ方をしたんですね。周りの家来たちが「無礼者！」って言って押さえようとしたら、大名が「構わん」って言ったんですね。「こちらで所望したものだから構わぬ」と。それ以来あそこは「鎌わぬ」という柄を使っています（諸説あり）。わかるでしょ？　鎌があって輪っかがあって、ひらがなで「ぬ」と書いてある。江戸っ子にすると気持ち良かったんでしょうね。大名の前でだって変わらないっていうところがね。彼の大きな声は劇場の外まで聞こえ、成田屋ににらまれると風邪も引かないということですからね。

まあ、今の海老蔵（十一代目・2020年5月に十三代目市川團十郎を襲名予定）と初代、性格が似てるなと思うんですけれども（笑）。傾奇者（かぶきもの）ですから本来はね。この子（十一代目のこと）、普段はいい子なんですよ。急に「この子」って言っちゃったな。例のオペラ座でね、「勧進帳」と「紅葉狩」をやった時、成田空港から電話でね「親父さん、この扇子だけは機内持ち込みにしますから」って言ってね、そういういい子なんですよ。心配な時がね、時々あるかもしれませんけど（2010年11月に十一代目市川海老蔵が暴行を受けるトラブルがあった）。

寛永寺の締め付けが浅草寺を発展させた

こうして当時の浅草は神社仏閣のデパートで、美人がいっぱいいて、一番新しい店も見られて、ということですからね、それは大概みんな集まりますね。加えて今度話す吉原というところも浅草の人気に火をつけることになります。観音様をお参りに行くついでに別の方もお参りに行くっていうような風潮もあったわけですから。

こんなにいろいろなものが集まったのはどうしてなのかと言うと、もとは上野寛永寺に収入を止められちゃったわけでしょ。そのために浅草寺境内で、いろんな見世物をしたり茶店だとかから家賃をいただいていたわけでしょ。それで浅草という町が人が集まるところになったわけですよ。収入を止められたことが逆に良かったわけですね。それから支院の境内地も貸しているわけです。いろんな店に貸したり、長屋も持ってるんです。芝居の河竹黙阿弥も支院の貸家に住んでいた。仲見世会館のところに黙阿弥住居跡という碑がありますけどもね。実際はもうちょっと先に行ったところなんですけど。するとただお寺だけがあってシーンとしているような街ではなくなって、盛り場としての勢いがついちゃうんですね。

ですからどこに盛り場になるきっかけがあるかはわからないです。問題は情報です。吉原っていうところは情報早いでしょ。お客さんから新しいことが全部入ってくる。それから芸事みたいなところ。今流行りのは、ああだよ、こうだよみたいな。それから寄席。寄席っていうのは世相を間に盛り込むことによって、お客さんを喜ばせるんですね。だからその時代の最も新しいことがすべて、浅草を一回りするだけで聞けちゃうわけですよ。情報というのがいかに人の心をつかめるか、人がいかにそういうものを求めてたかということもわかるわけです。

浅草寺の賑わいを奪った明治政府の神仏分離

よく、「頭（かしら）の新門」っていいますね。火消しの頭の新門辰五郎という人のことです。この人の家は、新門という門があるからどこら辺だろうと。一番多く言われるのは伝法院通りをず一っと行って、国際通りに突き当たるちょいと前だろうとか。それを越えた辺りだよという説もある。それからもう一つは地図

図7：
一筆斎文調
「鍵屋お仙」

の左側の上方に新門という門があったという説もあるんです。株式会社新門の先代の頭もさんざん調べたけどよくわかんないって言ってました。今の浅草寺境内観音裏の辺りに築山があって。浅草寺病院がある部分に、さっきの人が集まる要素があったら現代でも強いだろうと思うんですけど、後の世になって、全部無しになっちゃった。

明治になると政府によって神仏分離になっちゃう。さっきの地図の中に神社系統がいくつかあるんですね。これが寺の中にあっちゃおかしいということで、全部どかされる。それと同時に他のちいちゃなお堂やなんかも整理されて一つのところに収めたり、輪蔵みたいなものはなくなってしまったりして、境内はさっぱりしちゃうわけです。

もう一つは茶店だとかが、明治になると普通のお店が方々に出来てくる。瓢箪池の辺りもいろんなものが出来るけど、これはそのうち、明治以降の浅草という題でまたしゃべりますから聞いてもらいたいと思います。とにかく、明治時代と同時に浅草奥山の風情というものは全部なくなってしまったんです。

ウチのイチオシ！

かと里

クリームあんみつ

お店の紹介は P.18　地図 P.14-C2

住 台東区浅草1-1-11（2階）　営 11:00〜18:00

電 03-3841-7400　休 不定休

http://asakusa.gr.jp/jp/?p=552

「客席にお持ちした時に、盛り沢山のフルーツでとても驚かれます。そしてお帰りには『美味しかった』とのお声をいただきます」と、店主の香取治樹さんがイチオシするメニューがクリームあんみつ。ポイントは当店オリジナルの黒蜜で好みの味に調えること。店名は明治の版画職人だった初代・香取栄吉が屋号として使用していたものを継承。関東大震災後の創業当時から守り続けている昭和の味と店の雰囲気が魅力です。「食の浅草、和の浅草。お帰りの際にはぜひ当店のスイーツをお楽しみください」。

和風れすとらん若

牛肉のタタキ（和風ソース）

お店の紹介は P.20　地図 P.15

住 台東区浅草6-20-2　営 17:00〜 ＊要予約

電 03-3876-2500　休 不定休

http://asakusa.gr.jp/jp/?p=545

猿若町で40年前に開店以来、ずっと人気のメニューが牛肉のタタキ。88歳のおじいちゃんから2歳のひ孫まで家族4代のお客さんもいらっしゃるそうで、「幼い時は皆でシェアしていたのを、小学生になると席に着くや『僕はタタキでご飯』と注文し、一人前をペロリの姿は微笑ましく、料理人冥利に尽きます」とマスターの内田準二さん。ソースが残ると白いご飯やサラダにかける人も多いそうで、想像しただけでよだれが出てきそう。「営業時間の少ない若ですが、皆様のご来店をお待ちしております」。

にぃど・だもぉれ

カニ料理

江戸から明治にかけて、芝居小屋の市村座（写真右上）があった跡地で営業している和洋食レストラン。お客さんの要望が多いため、カニが看板メニューになったそう。「ボイルしたて、焼きたての身がプリプリで甘いと評判です。お客様の予算により、活タラバ、活毛ガニ、活ズワイガニなどを、ご来店してから調理しています」と店主の小竹三郎さん。「夜は1日1組予約制で御不便をおかけしますが、ランチは毎日、肉と魚が日替わりでフリーです。夫婦そろって一生懸命接待させていただいております」。

お店の紹介は P.20　地図 P.15

住 台東区浅草6-18-13 小竹猿若町レジデンス1F　営 月〜金11:00〜14:00、月〜土17:00〜22:00

電 03-3874-7561　休 日祝、第2・3土

http://asakusa.gr.jp/jp/?p=533

和泉屋本店

堅焼きせんべいなど

日本の伝統的なお菓子である煎餅・あられ・おかきを商い続けている和泉屋。店主の渋谷哲夫さんは、大学に通いながら18歳で支店を任され、家業の手仕事を受け継いできました。「国内産のうるち米・餅米・醤油・海苔・天然塩・きび糖・わさび・青さ海苔などの上質な原材料を使用して、自然乾燥と昔ながらの焼き方で手作りしています」と語る言葉には商品への誇りを感じます。海苔巻あられ　げんこつおかき、ふきよせ、柿の種などどれも美味しくて、イチオシだけど一つに絞れません！

お店の紹介は P.23　地図 P.14-C1

住 台東区浅草1-1-4　営 10:30〜19:30

電 03-3841-5501　休 木

https://www.asakusa-senbei.com/

浅草周辺マップ

浅草寺マップ

浅草寺境内石碑ガイド　浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

1 川口松太郎の句碑
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。

2 久保田万太郎の句碑
「竹馬やいろはにほへとちりぢりに」と刻む。

3 市川猿翁の句碑
「まだ身にそはず衣がえ」という三代目市川猿之助の句を刻む。

4 河竹黙阿弥顕彰碑
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。

5 中村吉右衛門の句碑
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。

6 並木五瓶の句碑
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。

7 山東京伝机塚の碑
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。

8 釘供養碑

9 団十郎「暫」の像
九代目市川団十郎の歌舞伎十八番「暫」の像。

10 映画弁士塚
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。

11 半七塚の碑
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。

12 三匹の句碑
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。

13 正岡子規句碑
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。

14 芭蕉像と句碑
「くわんをんのいらか見やりつ花の雲」の句を上部に、下部に松尾芭蕉の座像を刻む。

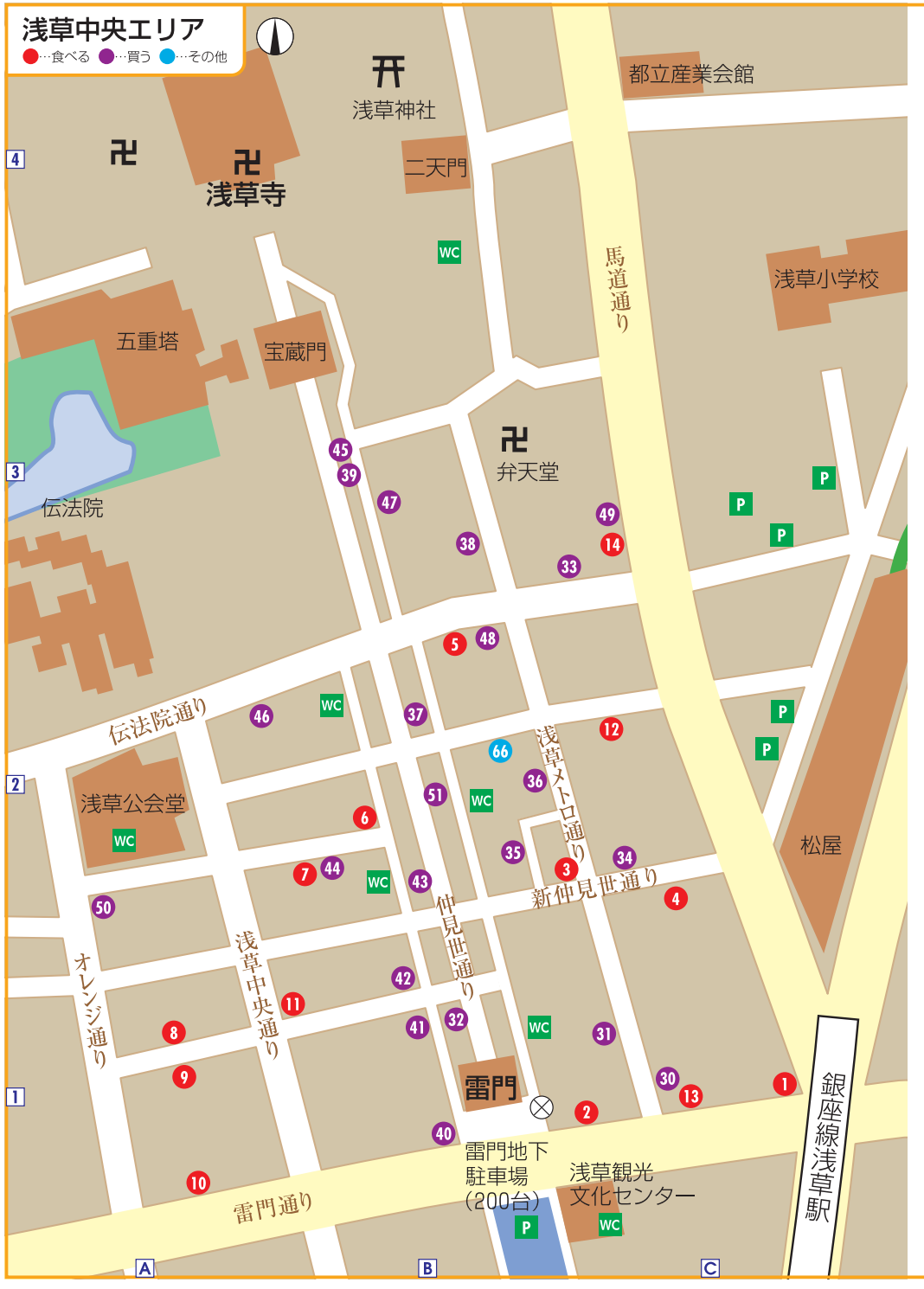
15 旧五重塔跡碑

16 浅草寺の神木・いちょう
源頼朝公が浅草寺参拝の折、挿した枝から発芽したと伝わる。昭和20年の東京大空襲で多くを焼失したものの、戦災をくぐり抜けた神木として大切にされている。

17 夫婦狛犬
二体並び寄り添う一対の狛犬。「良縁」「恋愛成就」「夫婦和合」の願いを込めて祀っている。

18 三柱の石碑
浅草神社に祀られている三神、檜前浜成・竹成、土師中知の名が刻まれている。

19 神木・槻の木
浅草寺御本尊の聖観世音菩薩が檜前浜成・竹成兄弟に網得された際、安置されたのが槻の木の切株。以来、絶えることなく自生する縁の深い木である。



中央部会員店

1. 神谷バー
2. 雷門 三定
3. 浅草うまいもん あづま
4. かと里
5. 名代らーめん 与ろゐ屋
6. 釜めし 麻鳥
7. 炭火会席 蔵
8. お好み焼き 一丁目
9. 和風居酒屋 魚菜
10. 天ぷら 葵丸進
11. 三角
12. 鉢の木
13. 尾張屋
14. 弁天山 美家古寿司
30. 手焼きせんべい 和泉屋本店
31. 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
32. 浅草きびだんご あづま
33. 早田カメラ
34. おもちゃのサワダ
35. ダンス・舞台衣装 東京モード
36. 組紐 桐生堂
37. 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
38. てぬぐい ふじ屋
39. あげまんじゅう 浅草九重
40. 常盤堂雷おこし本舗
41. 刃物 かね惣
42. 舞扇 文扇堂雷門店
43. 舞扇 文扇堂仲見世店
44. ミドリ屋
45. 木村家本店
46. よのや櫛舗
47. よ兵衛
48. 和装履物 浅草辻屋本店
49. 浅草の保健室ネオ
50. 江戸金銀工芸もり銀
66. 村石電気工事

北部会員店

15. 和風れすとらん若
16. レストランにぃど・だもぉれ
17. 料亭 都鳥
18. すし処 清司
52. 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
53. 株式会社製菓川喜多

山谷堀

山谷堀はかつての吉原への道筋の一つ。柳橋で猪牙船を仕立てたお大尽は、隅田川を上って今戸橋から山谷堀を抜けて吉原へ通った。現在、堀は埋め立てられたが、堀端の桜は当時の名残を残し、今日も桜の名所として知られている。

浅草富士浅間神社

毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天

待乳山聖天(まつちやましょうてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。

昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのばせる。

西部会員店

13 尾張屋
19 常寿司
20 天麩羅 中清
21 Bistro Kinukawa
22 居酒屋 TAKEYA
23 すき焼 浅草今半
24 どぜう飯田屋
53 デイジー
54 渡辺眼鏡商店
55 演劇・舞踊小道具 すずや
56 足袋・祭用品 めうがや
57 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
58 ヤマダの家具
59 今昔きもの龍巳（胡蝶）
60 まつもと履物店
67 浅草ビューホテル

江戸下町伝統工芸館

ひさご通り内にある洒落たたたずまいの江戸下町伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧下さい。
http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html

久保田万太郎生誕の地

久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描写した小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。

南部会員店

25 シーフードレストラン 月見草
26 ロシア料理 マノス
27 うなぎ 初小川
28 茶寮 一松
29 三代目魚熊
61 和菓子 龍昇亭 西むら
62 市川とうふ店
63 木彫 宗舟
64 書道用品 宝研堂
65 ゴルフ グリーンジャケット

駒形堂

駒形堂（こまんどう）は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

岡崎屋勘六（勘亭流元祖）の墓

西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六（文化2年2月3日に59歳で没）の墓がある。

勘六は、延亭3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といい、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字（勘亭流）が主流となったという。

はなし塚

田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。

浅草槐の会・会員店紹介

1 神谷バー（雷門通り） ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14 - C1

地図内番号 ／ 店名 ／ 通り名 ／ 分類 ／ 地図掲載ページ

食べる

1 神谷バー（雷門通り）

ビアホール、レストラン、割烹 地図 P.14 - C1

明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストラン、3階割烹がお勧めです。

電 03-3841-5400
住 台東区浅草1-1-1
営 11:30~22:00(L.O 21:30)
休 火曜日
http://www.kamiya-bar.com/

2 雷門 三定（雷門通り）

天ぷら・和食 地図 P.14 - C1

創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年。胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごとに変わる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200
住 台東区浅草1-2-2
営 11:30~22:00(L.O 21:30)
休 無休
http://www.tempura-sansada.co.jp

3 浅草うまいもん あづま（新仲見世通り）

和食・寿司・甘味 地図 P.14 - B2

なつかしい味の下町料理（和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…）を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190
住 台東区浅草1-32-1
営 平日11:00~21:00
土日祝10:30~21:00
休 無休
http://aduma.tokyo

4 かと里（新仲見世通り）

食処・茶処 地図 P.14 - C2

トレードマークのダイナミックな滝を眺めつつ2階へ上がると、和モダンな空間。みつ豆や白玉、おしるこ、パフェなど、種類豊富な甘味をご用意しております。浅草散策のひと時をお過ごしください。

電 03-3841-7400
住 台東区浅草1-1-11(2F)
営 11:00~20:00(L.O 19:30)
休 木曜日
http://asakusa-ryoin.jp/katori/

5 名代らーめん 与ろゐ屋（伝法院通り）

らーめん 地図 P.14 - B2

醤油らーめん発祥の地、浅草!昭和30年代に店主がここで毎日食べていた日本蕎麦屋のらーめんを再現しました。煮干・かつを節のかおり漂う昔ながらの和風らーめんを下町の風情と共にお楽しみ下さい。

電 03-3845-4618
住 台東区浅草1-36-7
営 11:00~20:30
休 無休
http://www.yoroiya.jp

6 麻鳥（公会堂横通り）

釜めし・串焼き 地図 P.14 - B2

新潟県下田町より直送の100%コシヒカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島の伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527
住 台東区浅草1-31-2
営 11:00~22:00(L.O 21:00)
休 無休
http://asa-kusa.jp/asadori

7 蔵（公会堂横通り）

炭火焼会席 地図 P.14 - B2

旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129
住 台東区浅草1-30-10
営 11:30~23:00(L.O 21:00)
休 無休
http://asa-kusa.jp/kura

8 一丁目（雷門柳小路）

お好み焼き 地図 P.14 - A1

新しい味の発見です!お好焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などでお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566
住 台東区浅草1-21-2
営 火水木12:00~15:00/17:00~22:00
金17:00~22:00
土日祝12:00~21:00
休 月曜日ただし祭日の場合は火曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html

9 魚菜（雷門柳小路）

和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14 - A1

魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919
住 台東区浅草1-17-9
営 平日17:00~23:30
日祝日12:00~22:30
休 無休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html

10 葵丸進（雷門通り）

天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14 - A1

「旬の肴に天麩羅でちょいと一杯」季節料理に天丼・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつけの天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110
住 台東区浅草1-4-4
営 11:00~21:00(LO20:00)
休 第2・4月曜日
（祝日の場合は翌日）
http://www.aoi-marushin.co.jp/

11 三角（浅草中央通り）

ふぐ 地図 P.14 - A1

明治35年（1902）の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650
住 台東区浅草1-20-7
営 13:00~22:00(LO21:00)
休 水曜日、正月、
お盆は不定休あり
http://www.asakusa-fugu.com/sankaku.htm

12 鉢の木（公会堂東通り）

甘味・喫茶　地図 P.14 - C2

浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られしばしの休息。あんみつ、おしるこ、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755
住 台東区浅草1-34-7
営 11:30～18:00
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html

13 尾張屋

日本そば　地図 P.14 - C1, P.16 - C1

幕末の創業以来、地元浅草の方々、観音様参詣の皆さまに広く愛されてきた老舗です。そばは、信州を中心に厳選した国産の一番粉、本かつお節のつゆ、胡麻油で揚げた天ぷらと、三位一体の美味しさです。

電 03-3845-4500（本店）
03-3841-8780（支店）
住 台東区浅草1-7-1（本店）
台東区浅草1-1-3（支店）
営 11:30～20:30 休 金曜日（本店）、水曜日（支店）

http://www.asakusa.gr.jp/shop/owariya

14 弁天山 美家古寿司

寿司屋　地図 P.14 - C3

創業慶応2年（1866年）。酢飯、仕事を施した寿司ダネ、新鮮な山葵と煮きり醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ヅケ、酢〆、昆布〆など、古典的技法を今もなお頑に守り続けております。

電 03-3844-0034
住 台東区浅草2-1-16
営 月～土 11:30～14:30（LO 14:00）、17:00～21:00（LO 20:00）
日祝 11:30～18:30（LO 18:00）
休 月、第3日曜日　http://bentenyama-miyakosushi.com

15 和風れすとらん若（浅草猿若町町会事務所側）

洋食レストラン　地図 P.15

江戸の名残の和風作りのお店で、洋食と色々なお酒をお楽しみください。特製ヒレカツサンドと、のりカツロールはお子様からお年寄りまで喜んで頂けるお土産に大人気です。（不定休の為、必ずお電話で御予約下さい。）

電 03-3876-2500
住 台東区浅草6-20-2
営 17:00～ ＊要予約
休 不定休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/waka.html

16 にぃど・だもぉれ（浅草猿若町市村座跡）

レストラン　地図 P.15

昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で（活タラバガニ等）、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561
住 台東区浅草6-18-13
小竹猿若町レジデンス1階
営 ランチ11:00～14:00、ディナー1日1組予約のみ17:00～22:00
休 日祝、第2・3土曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html

17 都鳥（浅草観音裏）

料亭　地図 P.15

江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、ご一緒に御趣向を楽しみませんか。

電 03-3874-2175
住 台東区浅草3-23-10
営 18:00～ 要予約
休 土日祝日

http://asakusa-miyakodori.com

18 すし処 清司（浅草観音裏）

寿司　地図 P.15

すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤、鯨は逸品です。鮪はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味くださいませ。

電 03-3872-7275
住 台東区浅草3-22-12
営 月～土17:00～25:00
祝日18:00～24:00
休 日曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html

19 常寿司（たぬき通り）

寿司　地図 P.16 - C1

屋台の鮨屋が提供していた昔懐かしい鮨。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お奨め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955
住 台東区浅草1-15-7
営 11:30～21:00 休憩なし
休 月曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/tsunezushi

20 中清（オレンジ通り）

天ぷら会席　地図 P.16 - C2

数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015
住 台東区浅草1-39-13
営 平日11:30～14:00、17:00～22:00 土日祝11:30～20:00
休 火曜日、第2、第4水曜日

http://www.nakasei.biz/

21 Bistro Kinukawa

フランス料理　地図 P.16 - B1

新鮮な魚料理と契約農家直送の有機野菜をお楽しみいただけるフレンチのお店です。ワインはもちろん、焼酎や日本酒もございます。下町ならではの居心地の良い空間で、素材にこだわった「おさかなフレンチ」をご堪能下さい。

電 03-5828-3313
住 台東区西浅草2-16-4
営 平日12:00～15:00、17:00～22:00
休 火曜日

22 TAKEYA（浅草ひさご通り）

居酒屋　地図 P.16 - B3

昔からひさご通りは六区興行街から千束吉原に向かう人で賑わう商店街でした。当店はお子様からお年寄りまで、気楽に入れて来て良かったと思われるお店を、従業員一同心がけております。大小予約承ります。

電 03-3841-6555
住 台東区浅草2-25-5
営 平日12:00～23:00
土日12:30～14:00、17:00～23:00
休 月曜日　http://www.asakusa.gr.jp/shop/takeya

23 浅草今半（国際通り）

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理　地図 P.16 - B2

厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼きが浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼丼」と「ステーキ丼」は、浅草の隠れ銘丼とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114
住 台東区西浅草3-1-12
営 11:30～21:30
休 年中無休

http://www.asakusaimahan.co.jp/

24 どぜう飯田屋（合羽橋本通り）

どぜう料理　地図 P.16 - B2

磨き込まれた籐敷きに
胡坐をかいて
どぜう鍋
一刻文豪気分です

電 03-3843-0881
住 台東区西浅草3-3-2
営 11:30～21:30(L.O 21:00)
休 水曜日、祝物日は前後振替
http://www.asakusa.gr.jp/shop/iidaya.html

25 月見草（浅草並木通り）

シーフードレストラン　地図 P.17 - C2

魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949
住 台東区雷門2-11-8
営 12:00～15:00
17:00～22:00(L.O 21:00)
休 無休
http://asa-kusa.jp/tsukimiso

26 マノス

ロシア風レストラン　地図 P.17 - B2

「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあ～れ～!

電 03-3843-8286
住 台東区雷門2-17-4
営 11:30～22:30(L.O 21:00)
ただし平日15:00～16:30準備中
休 火曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/manos

27 初小川（雷門仲通り）

鰻蒲焼き　地図 P.17 - B2

明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723
住 台東区雷門2-8-4
営 平日12:00～14:00,17:00～20:00 日祝17:00～20:00
休 不定休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsuogawa.html

28 茶寮 一松（万太郎横町）

会席料理　地図 P.17 - B2

ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょうか。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなどもご用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

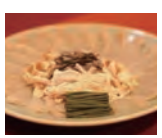
電 03-3841-0333
住 台東区雷門1-15-1
営 11:00～22:30
休 月曜日・お盆・12月は不定休・年末年始
http://www.ichimatsu.co.jp

29 三代目魚熊

ふぐ・魚料理　地図 P.17 - B1

魚屋から始まり、皆様に支えられて創業77年。1日も欠かさず築地で魚を手に取り仕入れしています。魚のことでは妥協致しません。お客様の「旨い」の一言のため、感謝を込めて笑顔あふれる店作りに励みます。

電 03-3851-5914
住 台東区蔵前3-20-5
営 17:00～22:30
休 日曜・祭日
http://uokuma.com



30 和泉屋本店（観音通り）

あられ、手焼せんべい、おかき　地図 P.14 - C1

良質の食材（もち米・うるち米・醤油・天然塩等）を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-3841-5501
住 台東区浅草1-1-4
営 10:30～19:30
休 木曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

31 和泉屋観音通り店（観音通り）

あられ、手焼せんべい、おかき　地図 P.14 - C1

このところ、堅焼の人気が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客様が増えています。

電 03-3841-8385
住 台東区浅草1-1-6
営 10:30～19:30
休 木曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

32 浅草きびだんご あづま（仲見世通り）

きびだんご　地図 P.14 - B1

江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋なにいさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190
住 台東区浅草1-18-1
営 9:00～19:00
休 無休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/kibidango.html

33 早田カメラ（伝法院通り）

カメラ　地図 P.14 - C3

浅草で創業68年になるクラシックカメラ店です。世界中のフィルムカメラを取り扱っており、博物館にあるようなカメラも置いています。仕入れた商品はすべて自店で整備して販売を行っています。

電 03-3841-5824
住 台東区浅草2-1-3
営 11:00～19:30
休 木曜日
http://www.photobazar.jp

34 おもちゃのサワダ（新仲見世通り）

玩具一般　地図 P.14 - C2

昔ながらのオモチャヤです。ビー玉・面子・ベーゴマから、今話題のオモチャまで、品数豊富に取り揃えております。お値段もお勉強させて頂いております。皆様の是非の御来店をお待ちしております。

電 03-3842-7367
住 台東区浅草1-33-3
営 9:30～19:00
休 水曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/omocha.html

35 東京モード（新仲見世通り）

ダンス・舞台衣装　地図 P.14 - B2

婦人服・子供服から舞台衣装・ダンスウェアーまで、最新デザインの商品をサイズ豊富に取り揃えております。お値段はサイフに優しい下町価格。普段のオシャレに、ダンスやカラオケの発表会に、ぜひご利用下さい!

電 03-3841-3915
住 台東区浅草1-32-2
営 10:00～18:30
休 無休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/tokyomode.html

36 桐生堂（浅草メトロ通り）

組紐、和雑貨　地図 P.14 - B2

当店は、商品も手作りですが内装も手作りで、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680
住 台東区浅草1-32-12
営 10:30～19:00
休 無休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/kiryudo.html

37 和泉屋仲見世店（仲見世通り）

あられ、手焼せんべい、おかき　地図 P.14 - B2

約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ（江戸童（わらべ）絵・日本人形・雷門）の手土産が人気です。

電 03-3844-2687
住 台東区浅草1-37-1
営 10:30～19:30
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html

38 ふじ屋（弁天山側）

てぬぐい　地図 P.14 - B3

四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵てぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283
住 台東区浅草2-2-15
営 10:00～18:00
休 木曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/fujiya.html

39 浅草九重（仲見世通り）

あげまんじゅう　地図 P.14 - B3

「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客様にも人気です。

電 03-3841-9386
住 台東区浅草2-3-1
営 9:30～19:00頃
休 無休

https://agemanju.jp

40 常盤堂雷おこし本舗（雷門通り）

雷おこしを主とする菓子　地図 P.14 - B1

今も変わらぬ下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓『雷おこし』家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良さから長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656
住 台東区浅草1-3-2
営 9:00～21:00
休 無休

http://www.tokiwado.tokyo

41 かね惣（雷門柳小路）

刃物　地図 P.14 - B1

プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業（明治6年）以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379
住 台東区浅草1-18-12
営 11:00～19:00
休 不定休

http://www.kanesoh.com

42 文扇堂雷門店（雷門柳小路）

舞扇、うちわ等　地図 P.14 - B1

扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088
住 台東区浅草1-20-2
営 10:30～18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html

43 文扇堂仲見世店（仲見世通り）

舞扇、うちわ等　地図 P.14 - B2

雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので気楽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711
住 台東区浅草1-30-1
営 10:30～18:00
休 毎月20日過ぎの月曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html

44 ミドリ屋（公会堂横通り）

舞踊衣装　地図 P.14 - B2

舞踊衣装のことなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441
住 台東区浅草1-30-11
営 10:30～18:00
休 毎月第2・4火曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/midoriya.html

45 木村家本店

人形焼　地図 P.14 - A2

人形焼の木村家本店です。仲見世通り奥の浅草寺様に一番近い角で営業しております。当店の人形焼の形は五重塔、雷様、提灯、鳩の4種で浅草を表現しております。どうぞ昔から変わらない木村家本店の人形焼をご賞味ください。

電 03-3841-7055
住 台東区浅草2-3-1
営 9:00～19:00頃
休 不定休

http://www.kimura-ya.co.jp/

46 よのや櫛舗（伝法院通り）

黄楊櫛、黄楊製品　地図 P.14 - A2

伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつげ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755
住 台東区浅草1-37-10
営 10:30～18:00
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/yonoya.html

47 よ兵衛（仲見世通り裏）

揚餅・お団子　地図 P.14 - B3

サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素朴で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ！

電 03-3841-0868
住 台東区浅草2-2-7
営 9:00～18:00
休 不定休

http://www.agemochi-yohei.com/

48 浅草辻屋本店（伝法院通り）

和装履物　地図 P.14 - B2

浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れない、熟達した職人の技が生きる鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321
住 台東区浅草1-36-8
営 10:00～19:00
休 無休
http://www.getaya.jp/

49 浅草の保健室ネオ（馬道通り）

クスリ　地図 P.14 - C3

浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329
住 台東区浅草2-1-15
営 9:30～19:00
土9:30～18:00
休 日曜日
http://www.neo-ph.com

50 江戸金銀工芸もり銀（オレンジ通り）

銀製品全般　地図 P.14 - A2

日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリーetcを自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821
住 台東区浅草1-29-6
営 10:30～18:30
休 無休
http://www.asakusamorigin.com

51 宮本卯之助商店本店（吉野通り）

太鼓・神輿、祭礼用具　地図 P.15

文久元年（1861年）創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155
住 台東区浅草6-1-15
営 9:00～17:00
休 土日祝日
http://www.miyamoto-unosuke.co.jp

52 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売　地図 P.15

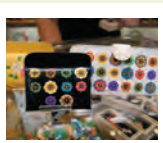
弊社は戦後まもなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売り販売、老舗様のOEM製造を中心としてきましたが、現在では「浅草の菓子屋」になりきろうと、「浅草川喜多」の名前での洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013
住 台東区浅草5-56-4
営 9:00～17:00
休 日・祝日（土曜日不定休）
http://www.s-kawakita.co.jp

53 デイジー（新仲見世通り）

バッグ、小物　地図 P.16 - C1

魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリ!カラフルな品揃えで心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入も個性的な貴女にピッタリ!特注・別注・修理も大歓迎です。



電 03-3847-8118（FAX共通）
住 台東区浅草1-22-10
営 10:00～19:30
休 不定休 2ヶ月に1回ほど
http://www.asakusa.gr.jp/shop/deiji.html

54 渡辺眼鏡商店（たぬき通り）

めがね　地図 P.16 - C1

創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466
住 台東区浅草1-16-7
営 09:30～19:00
休 火曜日（祝日の場合は営業）
http://www.watanabemegane.com

55 すずや（西参道商店街）

演劇、舞踊小道具　地図 P.16 - C2

時代劇や踊りに興味のある方、いろいろな小道具が並んでいます。近くにお出かけの時にはお気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3844-3798
住 台東区浅草2-7-13
営 10:00～18:00
休 火曜日
http://www.asakusasuzuya.co.jp/

56 めうがや（言問通り）

足袋、祭用品　地図 P.16 - C3

“めうがや”と書いて「みょうがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440
住 台東区浅草2-27-12
営 10:00～19:00
休 水曜日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/myogaya

57 宮本卯之助商店西浅草店（国際通り）

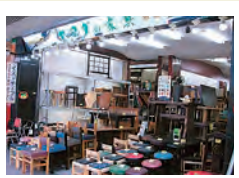
太鼓・神輿、祭礼用具　地図 P.16 - B1

文久元年（1861年）創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141
住 台東区西浅草2-1-1
営 9:00～18:00
休 年中無休
http://www.miyamoto-unosuke.co.jp/

58 ヤマダの家具（合羽橋通り）

家具・内装工事・リフォーム　地図 P.16 - A2



飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近はイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656
住 台東区松が谷3-2-12
営 9:00～17:30
休 日曜・祝日
http://www.asakusa.gr.jp/shop/yamada

59 今昔きもの 龍巳（胡蝶）（オレンジ通り・伝法院通り角）

着物　地図 P.16 - C2

胡蝶では、大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。また、本店・龍巳にて、日本舞踊の貸衣装・かつらのレンタルも承ります。

電 03-3843-7606
住 台東区浅草1-39-11
営 10:30～19:00
休 無休
http://www.asakusa.gr.jp/shop/kocho.html

60 まつもと履物店（浅草ひさご通り）

和装履物専門店　地図 P.16 - B3

自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461
住 台東区浅草2-22-11
営 11:00～18:30
休 火曜日

http://www.wasou-hakimono.com/

61 龍昇亭西むら（雷門通り）

和菓子司　地図 P.17 - C2

看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665
住 台東区雷門2-18-11
営 09:00～20:00
休 不定休

http://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html

62 市川とうふ店（万太郎横町）

豆腐　地図 P.17 - B2

浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではとくに“おぼろ豆腐”が人気です。水にまったくさらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357
住 台東区雷門1-14-3
営 5:00～19:00
13:00～16:00は休憩
休 水曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html

63 宗舟（浅草消防署手前右入る）

木彫刻　地図 P.17 - B2

初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458
住 台東区寿4-12-2
営 10:00～17:00
休 日曜日・祝日

http://so-syu.jp

64 宝研堂（江戸通り駒形どぜう裏）

書道用品専門店　地図 P.17 - B2

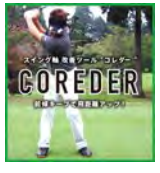
ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うのと行わないのとでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試し下さい。

電 03-3844-2976
住 台東区寿4-1-11
営 平日9:00～18:00
第1・3日曜10:00～17:00
休 第2・4・5日曜、祝日

http://houkendo.co.jp

65 グリーンジャケット

こだわりのゴルフ用品　地図 P.17 - B1



梅雨時のゴルフの必需品!夏場や雨のゴルフでグリップが滑りませんか?ゴリラゴールドが滑りを全て解決します。(全国販売店募集中)他所で見られないゴルフグッズをいろいろ揃えています。

電 03-5801-0940
住 台東区寿3-12-5 403号
営 10:00～18:00
休 日曜日・祝日

http://www.green-jacket.co.jp/

66 村石電気工事（仲見世会館そば）

電気工事業　地図 P.14 - B2

右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345
住 台東区浅草1-32-9
営 08:00～17:00
休 日曜日

http://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html

67 浅草ビューホテル

ホテル業　地図 P.16 - B2

江戸情緒を色濃く残す「浅草」。東京の新たなシンボル「東京スカイツリー」を目の前に、ますます活気に満ち溢れる「浅草」で気取らぬあたたかいおもてなしで国内外のお客様をお迎えいたします。

電 03-3847-1111(代表)
住 台東区西浅草3-17-1
営 チェックイン15：00
チェックアウト12：00
＊予約の宿泊プランにより異なる場合があります。
休 無休　https://www.viewhotels.co.jp/asakusa/

御神木「槐」の木の由来（ごしんぼく「えんじゅ」）

槐は中国原産の豆科の落葉高木で、高さは10mにもなります。初夏黄白色の蝶形の花を付け、中国では記念樹として植えられますが、日本では街路樹などにも多く植えられています。浅草寺境内の槐の木は、枯れては生えているので絶えることがないそうです。浅草寺のご本尊の聖観音菩薩は推古天皇の頃、漁師であった檜前浜成・竹成兄弟により網得されて川辺の槐の木の切株に安置されましたが、土師仲知が自宅内に堂を設けて観音様をお祭りしたのが浅草寺の起こりだと伝えられています。また、仲知達の子孫が3人を神様としてお祭りしたのが三社権現社です。

槐の会からのお知らせ

浅草槐の会（あさくさえんじゅのかい）は、浅草寺のご本尊の聖観世音菩薩が、推古天皇36年（628年）3月18日、隅田川で示現され、槐の木の切り株（現在の駒形堂あたり）に安置されたといういわれから“浅草槐の会”と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。

浅草槐（えんじゅ）の會事務局

※この冊子は、槐の会会員店舗にて
無料配付しております。

浅草文化観光センター

台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日（金）にリニューアルオープンしました。
開館時間午前9:00～午後8:00（年中無休）

台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2～3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまなご相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

□ TEL:03-3842-5599　FAX:03-6673-3046
□ ホームページ　http://www.taitouboragai.com